

親の考え方で子どもが変わる

子どもの心とからだ委員会

「いじめや登校拒否、子どもを取り巻く課題と親の対応について」をテーマに、子どもの支援・相談スペース【はぐルッポ】の西森尚己氏が講演されました。いじめや不登校に悩む親について、西森氏が一番大切に考えていることは、「親が子どもの命を中心に考え、自己肯定感を育ませること。子どもの現状を理解して認めてあげること。そして子ども自身で考えて変われることを信じて見守っていくこと。」このようにお話しされました。

現在、松本市には300人程度の不登校者いて、【はぐルッポ】は、さまざまな事情で学校に通えない子どもや、悩みを抱えている子どもの居場所を提供しています。学校とは違うコンセプトで気軽に相談できたり、子どもたちが元気になれるような支援ができる場所として活動されているそうです。

取材をして考えさせられたのは、いじめや不登校だけでなく、どのような事情であれ、悩みをかかえる子どもに対して、親が子どもの考え方を換えようとするのではなく、まずは親の考え方を変えて、急がず温かい目で子どもと関わっていき、子どもの存在を認めて信じてあげることが重要だと感じました。

松本市PTA連合会広報委員会

取材 深澤 博登 (清水中)